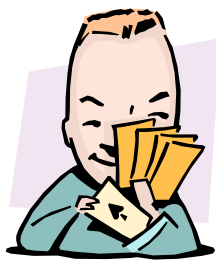


## 気がつかないフリ?

**市**役所に入庁して4年以上が経過したが、一番違和感を持ったのは「昨年度どおりにやれば問題ないから」という言葉である。このような前例踏襲主義が日常化しているのは、おそらくこの業界(公務員)くらいだろう。民間企業のビジネスマンなら、昨年とは違う、他社とは違うということこそ主張すべきことだと常日頃から心がけているはずだ。そして、この言葉を使うために一番多く聞かれる言い訳は、「行政の継続性」という“無敵の”切り札である。



**過**去の事例を見てその内容を検討し、自分なりに理解をして納得した上で前例を踏襲するのならば分かるが、内容を検討せず自分なりの理解も持たずに、ただ「昨年度、このやり方でやっているのだから問題ないだろう」という根拠のない感覚だけで、そのまま現在に当てはめて使ってしまうのはあまりにも乱暴ではないだろうか。それで説明責任が果たせるのだろうか?

**他**方、自治体は現在、変革(改革)を迫られている。過去から続けてきたこと(事業内容、自治体のあり方)を総点検し、改めるべき点は改めようという取組が行われている。将来、自分たちの自治体が生き残っていくために、「強い自治体」へと鍛え上げる努力を迫られているのである。

**継**続と変革。二つの言葉は相反する言葉である。「継続」は、「(名)1. 前から行っていることをそのまま続けること。また、そのまま続くこと。2. 以前か

らのことを受け継ぐこと。継承。」。「変革」は「(名)変えて新しいものにすること。また、変わって新しいものになること。改革。」(双方ともYahoo!辞書より)。一方では続ける事を良しとしながら、もう一方では変わらなければならないと唱えている。自分が言っていることの矛盾に気がつかないのか、気がつかないフリをしているのかはわからないが、継続性だけで事なきを得ることのできる時代はもう終わっている。



(政策経営課 一瀬真)

## 暴論オピニオン

三浦市政策経営課では、行政経営全般について日頃から様々な無責任放談をしています。このコーナーではその放談の中で飛び出した暴論をご紹介します。両手を挙げて賛成できないまでも発想のヒントくらいにはなるでしょう。

### 基礎自治体における職員採用・育成制度の課題に対する抜本的対処

基礎自治体の職員育成は、職員研修事業などと称し税金を投入して行う方法、必要経費については自腹で行う自己研鑽、そしてOJT(オン・ザ・ジョブ・トレーニング)<sup>1</sup>の3つに大きく括ることができる。筆者は、このうち最も大きな効果が得られるのはOJTだと感じ

<sup>1</sup> OJT: 工作中、仕事遂行を通して訓練をすること

ており、おそらく真理だと考える。

OJTの成果は、職場環境や上司、同僚の質に大きく左右される。閉鎖的な環境におかれた場合や上司、同僚に恵まれない場合、どんなに優れたポテンシャルを持った人間でも基礎自治体職員としての資質向上は難しい。もちろん反面教師に育てられるケースや職場環境が変わることにより改善されることはあるが、成長期に環境、上司、同僚に恵まれないなどタイミングを逸した場合は、OJTによる成果が期待できない職員となる場合も多い。「やる気のない職員」を作る要因の一つである。

職場環境は、意識、無意識を問わずその職場の職員が作るものだ。すなわち、OJTの成果をあげるすべての要因は“人”ということになる。質の高い職員がOJTにより職員を育成し、次の質の高い職員を作るという循環が始まる。現在の基礎自治体にそういう環境を作り出す方策はないだろうか。



基礎自治体には、政令市、中核市、都市、町村など、いくつかのバリエーションがあり、行う仕事も多少の違いはある。しかし地方自治法に定められた基礎自治体の役割に大きな差はない。つまり、横浜市で仕事をしようと三浦市で仕事をしようと、その違いは深刻ではない。

そこで提唱するが、基礎自治体の職員採用と人事

異動を一定の広域で行うといい。

国と都道府県、都道府県と基礎自治体の職員交流は行われているが、基礎自治体同士の職員交流はほとんどない。人事交流はなくても協議会と称して基礎自治体間の情報交換は日常行われており、その効果は大きい。しかし、基礎自治体の職員採用と人事異動(転勤)を一定の広域で行うことにより、現在の基礎自治体間における情報の流通量をはるかに超える情報が流通することは明白である。

このことにより、質の高い職員がOJTにより職員を育成し、次の質の高い職員を作るという循環が始まると信じており、質の高い住民サービスの提供につながる信じる。

三浦市の職員となるためには神奈川県域の基礎自治体資格試験にパスし、晴れて(基礎自治体の)地方公務員となり、勤務地の希望を三浦市とする仕組みがいい。そして何年かのサイクルで別の基礎自治体に異動(転勤)する仕組みがいい。郷土愛が強い人は、ほかの基礎自治体で修行をした後、郷土でその実力を遺憾なく発揮するといいい。

団塊の世代の卒業を迎える今こそ、地方制度改革のチャンスであり、その一つにこんな仕組みの導入があるべきだと思う。

次号(第17号)は12月20日発行です。

### 「ぼっこすこせえる」とは・・・

神奈川県三浦市には三崎弁と呼ばれる方言があります。「ぼっこす」は「ぶち壊す」の意味、「こせえる」は「こしらえる」という意味です。つまり、「ぼっこすこせえる」は「ぶち壊し、こしらえる」=スクラップ&ビルドという意味になります。



3S市長の経営視点

三浦市長の吉田ひでおです。10月28日、「第12回全国朝市サミット2007in みうら」が開催されました。三浦市最大級のイベントである「三崎港町まつり」と同時開催だったこともあり、おかげさまをもちまして大盛況のうちに幕を閉じることができました。特に全国からお集まりいただいた15の朝市による「全国うまいもの市」はたいへん喜んでいただけただけで、ホスト市としてもほっと一安心というところです。当日は、市役所職員はもちろんのこと、三浦商工会議所をはじめ、漁業・水産関係者など多くの方々にご尽力いただきましたが、運営に携わった方々みんなが、にこやかにお客様に接していたのがとても印象的でした。私が常日頃から口にいしている「もてなしの心」を持って「あったかいまち・みうら」の素晴らしさをお客様にお伝えすることができたのではないかと考えています。これを機会にもっともっとたくさんのお客様に遊びに来ていただければと願っています。